

平成22年8月1日発行

# 鯖街道 熊川宿

若狭熊川宿まちづくり特別委員会  
福井県三方上中郡若狭町熊川  
TEL/FAX (0770) 62-0330  
熊川宿ホームページ <http://kumagawa-juku.com>



中ノ町 逸見高岡家付近(平成22年6月10日)



## 文化財ふれあいフォーラム

文化庁の文化財総合的把握モデル事業の選定を受けて、若狭町と小浜市が取組む「歴史的な文化基本構想」の策定が進められる中、「第5回文化財ふれあいフォーラム」が、熊川の逸見高岡家で開かれました。

開会に先立ち来場者に、熊川宿まちづくり委員会の女性たちの協力で、松木長操先生に因んだ「長操鑑」が振る舞われました。フォーラムでは、司会を務められた西村幸夫氏をはじめとする6名の先生方から、仏像、古墳、建築などの各専門分野から鯖街道の多様な文化遺産についてお話を聞きました。

町内や小浜市のみならず、滋賀県や京都の一乗寺、出町からもお見えになり、会場に入りきれない程の多数の参加がありました。なお今回の会場「逸見高岡家」は、平成7年8月に第1回目の鯖街道熊川宿まちづくりフォーラムが開かれた場所です。昨年修理が完了した歴史ある建物です。

(4ページに詳細記事)

### 目次

文化財ふれあいフォーラム.....	1
寄稿文.....	2
寄稿文・話題・事業計画.....	3
文化財ふれあいフォーラム	
話題・活動報告.....	4
寄稿文・活動報告.....	5
活動報告・名所紹介.....	6

## 熊川に想う

平成22年度熊川区長 中尾和徳

若狹はその昔、京や大阪、奈良など都へつながらる食文化の拠点でもありました。現在も京の都へ魚が運ばれた街道が残っています。さてその街道は、何街道といふのでしょうか？

東京、名古屋、大阪など県外での観光キャンペーンのイベントで福井クイズをやってもすぐに「精街道」という答えが返ってきます。歴史や旅に詳しい方なら熊川宿という名も広く全国に知られるようになりました。名刺を交換すれば、皆さん一様に「えっ、あの町



ソーデーマーチで賑わう熊川宿の町並み

並みの美しい熊川ですか!?」と同じ言葉が返ってきます。その熊

川宿の認知度の高さに

も驚かされるばかりです。四〇〇年以上の伝統が息づくこのキレイな町並みをよくぞ造ってくれたと先人達に感謝せずにはおられません。町並み、山並み、前川に、坂あり、まがりありと変化に富んだこの1、2キロm、それに四季折々の表情にも絶品の色合いを見せてくれます。ゆっくり歩けば時間もゆ

っくりと流れて気持ちにゆとりを持たせてくれる、まさに癒しの空間です。しかし、不況も手伝ってか、お客様の数も少々減少気味です。リピーターのお客様を増やすには、もう少し「賑わいの創出」というおもてなしの心が必要なのかもしれません。

それと、少子高齢化の波と共に「空き家対策」という大問題が目の前にぶら下がっておりますが、今こそ我々住民の熱い想いを結集して、町並みを造ってくれた先人達に恩返しをする番です。「熊川力」を発揮すれば、解決口は見つかるはず。みんなで力強く立ち向かって行こうではありませんか!!

## 熊川宿ではや一年

人 裕 鼻 檜

私は、一昨年の春の結婚を機に妻の実家であるここ熊川宿での新たな生活が始まり、早一年と数ヶ月が経ちました。ようやく生活の環境になじんできた感じ。私自身、隣町の小浜市で生まれ、三十数年間は小浜で暮らし

ていました。正直住み慣れた小浜の暮らしから熊川で暮らすことへの不安感はあるが、住んでみて、いろんな感動や体験、経験の日々を送ることで、不安感がなくなつたように感じる今日この頃です。

まず、熊川宿の、のどかな町並みの素晴らしさは言うまでもなく、人の温かさには正直感動するものがあります。隣近所、組内や熊川区内の人々と接する中で、よその街からきた者にとって本当に温かく接していただけることに感謝

しています。父と母の支えも

ありますが(笑)

そして、熊川宿に来て初めて体験した出来事として、春の白石神社の祭礼と秋のいっぶく時代村の大イベントがあります。私自身、小浜の住宅地で育つたため、山車を曳いたり祭りに参加する経験はなかったのですが、地域行事やイベントに参加することで素晴らしい体験ができました。大変立派な山車のため、重く、曳くのが大変ですが(笑)

熊川宿に住むことで、豊かな自然とのどかな町並み、そして住む人の温かさ、この町並みの中で生まれた私の娘の今後の成長を楽しみにこれからもこの熊川宿で暮らしていきたいと思います。



熊川いっぶく時代村 大八車レース

## 話題 TOPIX 1

## 第4回 歴史環境講座

(1月23日・歴史文化館)

民俗学者で旅の文化研究所所長の神崎宣武氏が「若狭からみる日本の伝統と食文化」をテーマに講演。「現代は、ハレ(非日常)とケ(日常)の区別がつきにくくなって、祭りなどハレの日に食べたすしなどのご馳走が日常化している」と指摘されました。



## 第4回 文化財ふれあいフォーラム

(1月31日・若狭おばま食文化館)

滋賀県立大学教授濱崎一志氏が「舗街道の文化的景観」と題して「文化財は保存するだけでは持続できない、関係者の努力が要求される」と講演。

NPO法人WACおばま代表鳥居直也氏は「地域活動から見た歴史文化基本構想」と題してまちづくり活動を通して感じられる持論を展開されました。

また地元県立大学生による「サゴシの唐揚げ」が振る舞われました。

続く鼎談では、食文化館名誉館長の石毛直道氏、東京大学教授の西村幸夫氏、旅の文化研究所所長の神崎宣武氏が、食のまちづくりの将来像や「伝統は守ることも大切だが、つくる必要がある」と述べられました。



川柳で  
町並み散歩

紫陽花も  
扇を寄せ合うゲリウ雨  
七夕のかなわぬ想い  
それも夢

功

## 熊川宿に思うこと

若狭町歴史文化課 課長 田 辺 常 博

この4月の若狭町役場の人事異動により歴史文化課に配属され、

文化財保護関係の業務に携わらせてもらっており、私にとりまして熊川宿の皆様とは、平成19年度に文化財室

当時にお世話になっておりますので3年ぶりにお付き合ひさせていただきますことになり、

「江戸時代からの伝統的な面影を今にとどめる若狭鯖街道「熊川宿」は、「町並みを活かしたまちづくり」に住民の気持ち一つとなったことから、平成8年に、文部省「重要伝統的建造物群保存地区」、建設省「歴史国道の選定、国土庁「水の郷」の

認定を受け、わが国を代表する歴史遺産となりました。

私たちは、先人から受け継いだ大切な伝統的町並みを共有財産と考え、この自然・風土から生まれた木造民家の良さを体感しながら、自主的に継続可能な「みんながよくなる」まちづくりを進めていくため、若狭熊川宿まちづくり憲章を定めます。

これは、平成16年に皆様で制定された「若狭熊川宿まちづくり憲章」です。熊川宿は、平成8年に文化財保護法という法律で重要伝統的建造物群保存地区に選定され、保護・保存の対象となっておりますが、熊川の町並みが法律だけで守られている訳ではありません。この「若狭熊川宿まちづくり憲章」に謳われているように、熊川の町並みで生活されておられる皆様の

思い入れや愛着があつて、本当の意味での保護・保存ができるのだと思います。熊川宿が重伝建に選定されて15年目を迎えられ、若狭熊川宿まちづくり特別委員会を中心に、宿場館などの施設管理組合、いっぶく時代村実行委員会など10余りを数える団体と連携した集落全体の取組みとご努力に対し敬意を表します。

ところで、熊川宿の今後の課題として、国道303号の周辺整備、空き家対策を含めた熊川宿の活性化対策があります。このことに対しても、生活しておられる皆様と県、町行政が一体となった取組みが必要だと思いますので、今後のご協力をよろしくお願いいたします。

歴史文化課からのお知らせ  
町の機構改革により、平成22年4月から熊川宿担当の文化財室は歴史文化課に名称変更になりました。

- 若狭熊川宿まちづくり特別委員会  
▼平成22年度 事業計画▼  
(平成22年5月策定・7月現在)
- 5月12日 全国伝建地区協議会(青森県弘前市)
  - 5月15日 ツーデーマーチ協力
  - 5月29日 第1回まちづくり委員会
  - 5月6月 一乗美林街道・城跡の整備
  - 6月 白石神社の清掃
  - 6月 ファンクラブ支援
  - 6月14日 合同部会(活性化・町並み対策・広域)
  - 6月27日 七夕飾り
  - 7月下旬 町並み通信第21号発行
  - 9月 まちづくり・特産品 研修・交流
  - 10月3日 熊川いっぶく時代村  
(熊川いっぶく時代村実行委員会主催)
  - 11月5日 全国町並みゼミ(若狭県内4市)
  - 平成23年
  - 1月下旬 町並み通信第22号発行
  - 2月 熊川宿まちづくり総集會
  - 3月 平成22年度最終まちづくり委員会  
(随時)
  - ・日本風景街道事業
  - ・町並み関連の駐車場、前川、道路、神社の清掃と草刈り等
  - ・ホームページ更新
  - ・委員会、役員会、部会を開催
  - ・若狭町並みに近隣のまちづくり研修・交流会に参加

## 話題 TOPIX 2

## 第5回 歴史環境講座

(3月13日・バレア若狭)

昨年、早稲田大学大学院公共経営研究科を卒業、熊野古道をテーマに10万字に及ぶ修士論文を書かれた女優の秋吉久美子さんが講演。若狭地方について、「神仏が見事に融合している、三方五湖が神秘的、梅林が守られていることが素晴らしい」と絶賛されました。

## 伝統文化保存協会講演会

(6月6日・歴史文化館)

講師は文化庁伝統文化課主任調査官の菊池健策氏。

「若狭地方の民俗文化とその継承の意義」をテーマに、文化財の種類や保護継承の意義を説明、若狭地方をはじめ、佐渡や足助などの例をあげて文化財保護活動の様子を解説されました。最後に「過去の伝統や文化を守り伝えていくことが我々の責任であり、次の世代への伝統文化の継承になる」とまとめられました。



## 熊川宿総合整備推進委員会 設立

6月24日、第1回目の委員会が開かれました。国道303号の環境整備や空き家活用の検討と葛など特産品の振興を行うため、若狭町と住民が連携して熊川宿の活性化を検討していきます。



葛を学ぶ視察研修会が開かれ、奈良県宇陀市の「森野吉野葛本舗」へお伺いして葛の製造工程をお聞きし、工場や販売店を見学しました。その後、宇陀松山の伝建地区も見学しました。今後、若狭町との連携を深めながら、熊川葛の復興を進めたいと考えています。

## 3/6 宇陀市へ葛の視察研修

(日本風景街道事業)



出したい

福井大学 福井宇洋氏  
「京の町家からの影響」  
「若狭地方の町家の造りは、京都の造りの影響を大きく受



と直結していたことを仏像が物語るっている」  
滋賀県立大学 濱崎一志氏  
「鯖街道の文化的景観」  
「虫の目、鳥の目、科学の目  
で鯖街道の景観や特色を見い



奈良国立博物館 稲本泰生氏  
「仏像の道としての鯖街道」  
「若狭の地は、鯖街道を介して都（平城京や平安京）の地

パネリスト・テーマ・要点

## 第5回 文化財ふれあいフォーラム

とき：平成22年6月10日(木)午後7時30分  
ところ：逸見高周家(熊川宿中ノ町)  
テーマ：鯖街道の多様な文化遺産  
主催：若狭町・小浜市



また会場から集められた質疑や提案に先生方が応えられ、最後に西村幸夫氏が「この地域は水月湖湖底の年縞のように歴史が堆積している。この歴史や環境を次の世代に繋げたい」とまとめられました。

まちづくり委員会会長の河合健一氏は「鯖街道を通じた現代の文化交流」と題して、熊川宿がこれまで歩んできた経緯や苦勞を語り、今後の交流と発展を望まれました。



「韓国にも鯖街道があり、商品のPR活動を行っている」  
韓国慶北大学 朴天秀氏  
「韓国の鯖街道」



「前方後円墳など王様の古墳が鯖街道沿いに点在することから、鯖街道は古墳時代から重要なルートだった」  
花岡大学 高橋克壽氏  
「古墳時代の鯖街道」

「前方後円墳など王様の古墳が鯖街道沿いに点在することから、鯖街道は古墳時代から重要なルートだった」

## 2/21 まちづくり総集会

初めに永平芳広熊川区長が開会の挨拶。森下裕若狭町長は、町が直面している課題や町の機構改革を説明されました。



次に、松岡喜一若狭町議会議員は、学校、保育所、空き家問題は地域全体で捉えたい」と語られました。



永江寿夫文化財室室長補佐は、伝建地区に関する近況報告と、空き家対策や葛の活用など熊川宿の展望を話されました。

続いて、長年にわたり熊川城址や大杉の水路、山林など熊川の環境保全に尽力されて来られた宮本重光さんにまちづくり委員会から感謝状が贈られました。最後に、河合健一会長が近況を報告し、今後の活性化を願う総集会を締めくくりました。当日は、他の行事と重なったこともあって出席者は例年より少なめでしたが、熊川をとりまく現状など貴重なお話を聞きすることができました。



【活動報告】平成22年1月

## 編集委員の苦労話

若狭熊川宿まちづくり特別委員会  
広報部長 松見正幸

熊川宿の広報誌「町並み通信 鯖街道熊川宿」は、この6月で10年を迎えました。前回は、第20号の記念号を、また今回は第21号を発行させていただきました。

想えば、重伝建の選定を受け、本格的に町並み整備が進んでいた平成12年頃、中条橋が架け替わり、街道から電柱や電線が消え、変わりゆく町並みを趣味で撮影記録していました。

「しばらく途絶えていた広報誌を発行するので協力してほしい」との要請を受けたのが編集に携わるきっかけでした。

以来10年間で延べ100名近い方々から原稿をお寄せいただきました。熊川住民はもとより、まちづくりに関わられる先生方、縁あって熊川に来られた方、熊川ご出身の方、そして熊川宿を応援してくださるファンクラブ会員様、皆さんそれぞれの環境や立場から、実に多くの感想や思いをお寄せいただいたことになりました。この場をお借りして心より厚くお礼申し上げます。

また撮影や取材を兼ねて地域活動にも参加させていただくようになりました。でもやはり原稿を集めることが一番苦勞します。

広報委員の活動には、広報誌の発行の他に、ファンクラブの事務や熊川宿ホームページの更新作業があります。なかでもホームページは、熊川宿の行事や活動など最新情報を随時掲載するよう努めています。役に立っているのか迷惑をかけているのか分かりませんが、やりがいを感じ、楽しみながら活動させていただいています。

この「楽しみながら」が大切で、健康、家庭、仕事が最優先。地域活動参加はその次でいい。苦にならないこと、趣味や特技が活かせること、地域活動に共感できることが重要だと思っております。当初のコンセプトである「住民の暮らしを犠牲にしないまちづくり」はこの点においても言えることではないでしょうか。仕方なく参加するのではなく、熊川宿が好きだから、楽しみながら地域活動に参加するのです。

今後も、少しのハンデを抱えながら、皆さんに助けてもらいながら、微力ではありますが、この熊川宿まちづくり活動に参加していけたらいいと思います。

第11日

## 熊川いっぷく時代村

今年も  
お待ちして  
まっせ〜!!



とき 平成22年 10月3日(日) ところ 鯖街道熊川宿一帯

主催：熊川区 熊川いっぷく時代村実行委員会 共催：曾我園家 福蘭 平成22年9月10日



3/28

## 前川美化活動

(日本風景街道事業)

区民総出の美化活動に合わせ、日本風景街道の環境保全活動が行われ、熊川区役員及び熊川自衛消防団員を中心に、大杉水路の土砂あげ作業が行われました。また上ノ町、中ノ町、下ノ町の前川の水を止めて、区民によるゴミ拾いや清掃作業が行われ、前川が美しく蘇りました。



3/20

## 北九州風景街道協議会が来訪

北九州風景街道協議会代表者が研修に來られ、まちづくり委員代表者が熊川宿の取り組みや活動を説明、意見交換をしました。その後、熊川宿の町並みや宿場館、旧逸見勘兵衛家を見学していただきました。

門司港から佐賀県まで広域に亘る北九州風景街道は、20以上のまちづくり団体からなる大規模な組織で、熊川同様、日本風景街道事業を展開されています。



3/8

## 陶芸体験で熊川宿をPR

(日本風景街道事業)

町の農村民泊事業に沿って、熊川宿おもてなしの会が運営する宿泊施設「熊川宿勘兵衛」では、地元住民の特技や興味を活かした体験事業を行っています。この事業に関わるメンバーが、熊川宿やこの事業をPRするため、箸置きを造る陶芸を体験しました。



4/20

## 西川知事と意見交換

西川一誠福井県知事を旧逸見勘兵衛家にお迎えして、「座ぶとん集会」が開かれました。知事自ら司会者となつて、熊川区役職者やまちづくり関係者が熊川宿の現状や活動を報告、観光面や熊川葛の活用策、熊川宿の将来像について活発な意見が交わされました。



5/1

## ほたる会館・蛭育成活動

（熊川宿ほたる生感研究会）  
上ノ町の空き家を活用して蛭の育成活動写真などを展示、熊川宿ほたる会館として一般公開しています。蛭の育成は3年目を迎え、小学生や青年の協力を得て、蛭のエサとなるカワニナ獲りなど飼育に努めています。今年は、6月中頃からピオトープの蛭が飛び始めました。



5/3

## 白石神社祭礼賑わう

本陣近くでは、ゲームコーナーや大判焼きのバザーが賑わっていました。山車巡行の前に、女性の会による「七福神大笑い音頭」が踊られ、祭りに花を添えました。  
青年と子どもたちの祭り囃子が響き渡る中、観光客も加わって賑やかに山車が区内全域を巡行しました。

5/12  
13

## 伝建保存地区協議会 弘前大会

全国伝統的建造物群保存地区協議会弘前大会に熊川宿と町から代表者が出席しました。全国から40の行政、30の団体、総勢約150名が集まり、総会や事例発表、情報交換会が行われました。二日目の現地視察では、弘前市仲町伝建保存地区や弘前城を見学しました。



5/15

## ツィーターマーチおもてなし

若狭三方五湖ツィーターマーチの第1日目、鯖街道コースで熊川宿を訪れたウォーカーに、まちづくり委員会の女性たちの協力で「長操旗」が振る舞われました。参加者は年配の常連さんから子どもたちまで幅広く、快晴に恵まれた新緑の熊川宿を元氣いっぱい歩いています。



6/27

## 七夕飾りで活性を願う

昨年に続き、まちづくり活性化部会が中心となって、七夕飾りが行われました。6月中頃から熊川小学校や商店に呼びかけて、小学生や来訪者に短冊に願い事を書いてもらい、防水加工を施して、西口、中条橋、ほたる会館で飾り付けを行いました。多くの願い事が初夏の風にゆれていました。



### 熊川番所

（くまがわばんしょ）

「入り鉄砲に出女」といわれ、物資の統制と課税が行われていた徳川幕府の時代、熊川番所でも女子の通行手形改めや物資の運上徴収などが行われました。平成14年に歴史的考証を行いながら復元され、一般公開されています。全国唯一、伝建地区内に元位置のまま現存する番所建物です。

## あとがき

熊川宿の逸見高周家で文化財ふれあいフォーラムが開かれました。専門家の先生方のお話をお聞きし、改めて自分たちが住んでいる所が、鯖街道の歴史や文化の要所であることを再認識しました。今後、基本構想の策定や活用計画が進められることになっています。

またこのほど町と連携して、葛等の特産品や空き家対策を検討する熊川宿総合整備推進委員会が設立されました。熊川宿の今後の動向が注目されるところです。熊川宿活性化のきっかけにしようとして昨年からはじめた七夕飾りは、今年、さらにバージョンアップし、小学校や商店の協力を得て願い事を書いた短冊がたくさん集まりました。熊川宿の発展を願ってくださる短冊も多く見られました。

町並み通信は前回、第20号の記念号を発行させていただきました。今回はまた新たな気持ちも込めて、情報満載でお届けすることができました。今後ともご協力の程よろしくお願い致します。

編集委員